（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	5	課題区分	C
横断的な課題	諏訪湖創生ビジョンの推進				
地域重点政策	諏訪湖創生ビジョンの推進				

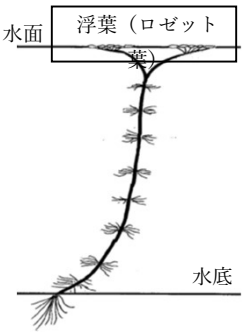
令和7年3月17日

諏訪地域振興局

実施機関	諏訪湖環境研究センター	担当課	所属	調査研究部　生態系保全班
事業名	ヒシ除去量増加に向けた新たな仕組みの構築事業		電話	0266-78-0152
			E-mail	lskanken@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等

目的（目指す姿）	総合5か年計画及び諏訪湖創生ビジョン（改定版）においてヒシによる貧酸素、景観阻害等の課題の解消のため、ヒシ除去量の増加に向けた新たな仕組みづくりを重点施策としてR5から位置付け。新たな仕組みづくりとして、団体の自主的な取組とともに、これまでの刈取手法に加え、より簡便かつ費用のかからない方法によるヒシ除去を試行的に実施し、効果を検証する。
現状と課題	ヒシは栄養塩類吸収による水質浄化や、野鳥のえさ場、魚類や水生昆虫の産卵場所となる等プラス面の影響がある一方、大量繁茂による沈水植物への生育障害、枯死による底質環境悪化、水流阻害による貧酸素化、船の航行障害、景観の悪化等マイナス面の影響がある。2028年度国民スポーツ大会開催に向けヒシ刈り等による諏訪湖の環境整備を求める声もある中で、新たなヒシ除去手法を検討する必要がある。前年度はロゼット葉除去を試行的に実施し、一定程度のコスト削減が見込めることがわかったが、データが少なく再現性が乏しい。また、翌年度にヒシ繁茂抑制の効果が現れるかはわかっていない。
内容（変更後の内容）	1　新たな手法の試行的導入 これまでの機械刈り、手作業での抜き取りに加え、実のなるロゼット葉のみを除去する方法を試行する。（北海道の達古武湖で先行事例あり。諏訪湖での繁茂抑制効果や費用対効果を検証。） 2　実施内容 ・前年度の除去エリアにおけるヒシ繁茂状況を調査。（撮影、分析、6～9月） ・未除去エリアからの実の混入を防ぐために設置した設置網に破損があった場合は補修を行う。 ・除去エリアからヒシが繁茂した場合は、そのヒシを除去する。（経年での除去の効果を調査する。） 3　評価方法 ・対象エリアの除去前と翌年度の繁茂状況を写真等で比較し、効果を検証する。
事業期間	令和6年6月　～　令和6年11月		



事業費等

（単位：円）

事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考
繁茂状況調査、ヒシ除去	船舶借り上げ（操縦士含む）	17,200	別紙経費入力シートのとおり
設置網補修	委託料	0	別紙経費入力シートのとおり
効果検証	需用費（機部材費用）	26,290	別紙経費入力シートのとおり
合　計		43,490	

指標及び達成状況

成果指標	目標値	成果	達成状況
試行後の繁茂密度（被度）の減少率	30%	0%	○ 達成 ○ 一部達成 ◉ 未達成
除去面積当たりのコスト（堆肥化費用）削減率	50%	42%	

事業実績・成果

令和6年8月9日に前年度の除去エリアにおけるヒシの繁茂密度を計測するとともに、再度繁茂したロゼット葉の除去を実施した。また、昨年度サンプル数の不足により正確に算出できなかった堆肥化にかかるコスト削減率を算出した結果、目標達成には至らなかったものの、それに近いコスト削減効果があることがわかり、ヒシ除去量増加に向けた足掛かりになった。
なお、除去エリアにおける繁茂密度の減少は確認されなかったものの、除去したロゼット葉の重量は昨年度の約1/4となっており、除去の効果が現れている可能性も考えられる結果となった。
これらの結果を、令和6年10月29日に開催された第3回「諏訪湖の水草対策」ワーキンググループにおいて報告し、情報共有を図るとともに議論を行うことで、団体の自主的な取組を推進するきっかけとなった。

今後の方向性

除去エリアにおいて今年度も同様にヒシが全面に繁茂したが、他湖沼の事例では効果が現れるには複数年継続して除去を実施する必要があることが確認されており、継続して事業実施・調査を行ってその効果を確認する。